

# 2023年12月19日掲載 カーゴニュース

## 第一貨物

### 小型EVトラックを3拠点に導入

#### 山形では県内初、脱炭素を加速へ



第一貨物のラッピングを施した「eCanter」

を検証し、脱炭素経営をさらに加速する。

今回導入した車両は、三菱ふそうトラック・バスの小型EVトラックである第3世代「eCanter」の2tクラス車で、航続距離は236km。充電時間は、急速充電の場合は2時間程度、通常充電では16時間で満充電となる。また、車両安定性制御装置や車両逸脱警報装置といった先進安全装置を搭載し、高い安全性能を備えている。

第一貨物（本社・山形県山形市、米田総一郎社長）は11日、小型EVトラック「eCanter」を3台導入したと発表した。山形支店（山形県山形市）、東京支店（東京都江東区）、門真支店（大阪府門真市）の3拠点に1台ずつ配備する方針があり、山形におけるEVトラックの導入は県内初の取り組みとなる。今後は全国の拠点への導入も視野に実用性など

第一貨物では、2006年からハイブリッド車の導入を進めているほか、山形県内で積極的に植樹活動を行うなど、環境活動に注力。今回、さらなる環境負荷低減に向けて小型EVトラックの導入を決めた。まずは3台を導入し、それぞれ山形支店、東京支店、門真支店に1台ずつ配備し、充電設備も各支店



テープカットの様子（中央が米田社長）

に整備した。なお、山形県内でEVトラックが導入されるのは今回が初となる。同社では3拠点での導入を皮切りに、今後は全国の拠点への導入も検討していく方針があり、導入拡大にあたって燃費性能や冬場の降雪時における実用性などを検証していく。

同日、山形支店で行われた出発式に出席した米田社長は「当社では集荷・配送の際の航続距離がどうしても100km以上になることが多いため、これまで航続距離の問題からEVトラックの導入を見送っていた」と振り返り、「新型の「eCanter」

ter」は航続距離が前モデルと比べて約1.4倍に伸び、実運用に十分耐えられるものとなったことから、導入に踏み切った」と説明した。

続いて、来賓として出席した山形県トラック協会の熊澤貞二会長（ベア・ロジコ）は「県内の事業者からEVトラック導入の先進事例が出てきたことを喜ば

しく思う。第一貨物から使い勝手といった情報をいろいろと教えていただくことで、今後の県内の他事業者による導入検討につなげていきたい」と述べた。